

環境型ニセコ旅育(たびいく)の創出による地域おこし事業

概要

ニセコ町は、自然環境を活かした観光地として、国内外から年間150万人が訪れていたが東日本大震災以降入り込み数が減少している。町内就業人口の7割が第三次産業に従事し地域経済に与える影響は大きい。

現在、地域資源の持つ魅力が観光に十分に活用できていないとはいえず、これまでの団体観光から少人数グループへと観光客の形態の変化への対応、また、他地域とは異なる特色を持った観光メニューづくりの対策が必要となっている。地域の魅力を最大限発揮し、さらに町が力を入れている環境施策を取り入れながら、地域の観光プログラムの創出など観光地の魅力向上の方策を調査し、地域の活性化を図る。

北海道ニセコ町



事業の内容

事業の内容

- ・「環境型ニセコたびいくプログラム」の実証実験による顧客ニーズと実現課題の把握
- ・たびいくプログラムのプレイヤー、サポーターのニーズ及び地域での展開可能性調査
- ・地域におけるたびいくプログラム導入及び持続可能な事業の実現可能性の検討

総事業費

1. 1百万円

ポイント

- 実証実験を通じて参加者が望むプログラム内容や値段設定、問題点などを確認。
- 地域でのたびいくプログラムの理解と参加・サポート体制可能性の把握。
- 事業の立ち上げ推進する際の課題と対策が見え、早期の事業展開が展望できた。

事業の成果

①環境型たびいくプログラムによる利用ニーズの掘り起こし

実証実験を通じ、環境に関心がある人々のニーズを把握することができ、今後の展開の見通しが見えてきた。既存の観光客のみだけでなく、地域の付加価値へ向けた取り組みの可能性と過疎地域としての活性化の道筋の展開を見出せた。

②ニセコ町における環境型たびいくプログラム事業化に向けた方向性

実証実験を通じ、既存の自然を活用する体験観光以外に、地域資源や人材、環境に配慮したプログラムを活用するたびいくプログラムの可能性を見出せた。また、事業推進の核となる事務局機能の検討により、スムーズな事業化に向けた体制を整えることができた。

③環境型たびいくプログラム事業に向けた意識の醸成

町内に潜在する地域資源や人材を活かしたいニーズが明らかになり、有機的に連携させ多様なプログラム提供による満足度の向上、地域内での経済循環や人の往来の増による活性化を図っていく意識醸成に結びついた。